

～古賀院長エッセイ～

次代への風



守りと攻め

ソフトバンクホークスの優勝が決まりました。2年連続の4連勝で、巨人は全くのお手上げ状態でした。どこにホークスの強さがあるのでしょうか。じっくりと作り上げられたチーム力ですが、守備と攻撃のバランスが非常に良く、ここぞという時に実力を十分に発揮しているようです。それぞれの選手が自分の役割をしっかりと自覚して取り組んでいることも感じられます。森の木のチームもかくあるべし、と教えられます。

守りと攻めはスポーツでは分かりやすく、サッカーでもディフェンス、フォワードなどと役割が決められています。しかしディフェンスでも積極的にボールを奪いに行くなどは、攻めの姿勢です。表面的には守備でも、攻撃も同じようにバランス良くできるのがプロです。典型はイチロー選手でしょう。

一般の生活の中でも、守りと攻めをバランス良く行うことで、結果がついてきます。受験生は自分の弱点をしっかりと捉えて補強することが守備です。本番の試験では、出題傾向を見極め、思い切り答案に向かうのが攻撃です。健康管理も同様で、無茶な生活や偏った食事は、守備である免疫力を弱め、病気につけいる隙を与えます。お得だからと、みんなが流行地に出向けば、コロナに攻撃のチャンスを与えることになり、結果は見えています。

一日の仕事や生活を守りと攻めという観点からみると、どんなこともスポーツやゲームのような感覚で、生き生きと取り組めると思います。



院長語録

毎朝の朝礼での一訓をご紹介します。

- 今取り組んでいる事のベース(基本)は何なのかを考えてみる
- 教育・試験制度は減点方式が主流
加点方式でマイナスの現状さえも、
いかにプラスに変えていけるかの思考が大切